

受験番号

受験番号

令和5年度  
国語

問題一

令和五年度  
国語解答紙

文・教・法・医（保健学科看護学専攻）  
（四枚のうち、その一）

一

問一

巖然	㉗
幹	㉘
翻	㉙
貪欲	㉚
漠	㉛

問二

老若男女

問三

プランは、季節性のない熱帯雨林の中で採集狩猟をしながら暮らし、食糧がなくなると必要とする財が存在する場所へ移動するノマディックな生活をしていたので、共同体や社会のレベルで何かに備える計画的な作業を行うための時間の管理、時系列の組織化を必要としなかったから。

問四

人類は、農耕牧畜をはじめたことで、将来の糧を備蓄するための作業の中、自然現象が告げる農耕作業の開始と実用レベルで用いるようになった。その後、しだいに暦が必要となるとともに、本来は区切れない連続体に対し、観念的な時間の体系を作り出し、時間軸という絶対的な基準の中で時を経験するようになった。

受験番号

令和5年度  
国語

問題二

受験番号

令和五年度 国語 解答紙

文教・法・医(保健学科看護学専攻)  
(四枚のうち、その二)

二

問五

A

イ

B

コ

問六

次郎兵衛は三年間の喧嘩の修業に励み、その成果を試せる相応の  
相手が見つかったため腕が鳴った。好色な丈六によって窮地に立た  
された親子を救うという正当な立場で喧嘩できるという機会を狙った。

問七

次郎兵衛は三年の間、まざままな修業に努め、充分に喧嘩の腕を上げ  
たが、火消しの頭としての信頼を得るばかりで喧嘩の腕を試す機  
会が無く、それを味気無く思っていたところ、花嫁を迎えて喧嘩  
の仕草を試してみると、花嫁が死んでしまい、次郎兵衛の修業の成  
果が皮肉にも証明されてしまったことを強調して表現したから。

受験番号

受験番号

令和5年度  
国語  
問題三

令和五年度  
国語解答紙

文教・法・医(保健学科看護学専攻)  
(四枚のうち、その三)

三

問八

B

問九

① この髪結いの男は文字を書くことができなかつたので、他の者に恋文を書かせて堀川の女に送った

③ 清らかな紙に運筆の流れがいかに目に鮮やかなように書き表しながら

問十

I

問十一

女からの返事の、今は自由の身ではないので待つてほしいという、気を持たせる文面に一旦は得意満面であったが、最後の歌で、宮仕への経験もあり、権勢ある男の愛人である女に、たとえ自由となったとしても髪結いの男など髪の一筋ほども恋しくないと突き放され、さしもの色男も顔色を失ったから。



受験番号

受験番号

令和5年度  
国語  
問題四

令和五年度  
国語解答紙

文・教・法・医（保健学科看護学専攻）  
（四枚のうち、その四）

四

問十二

① し  
カ  
② そ  
レ

問十三

徳行	イ	ウ
	カ	キ

問十四

しからばすなはちぶんをつづるはもとよりよじたり。

問十五

或る人は、文章はただ自分の思いを華麗麗に表現したものに過ぎず、徳行こそ社会の役に立つものとして尊んでいるが、筆者は、徳行つまり「易見え粗」は具体的な実体を伴うので、その人物の評価には定まった基準があり、論じるまでもないのに対し、文章つまり「難識え精」は、一律の判断基準では計れないからこそ論じる価値があると考えるから。

